

早稲田大学 重点領域研究機構
東日本大震災復興拠点・先端環境医工科学研究所
公開シンポジウム
第二部 パネルディスカッション

何度でも足を運んで

～生活・事業再建に悩む方々とともに～



2012年12月20日
特定非営利活動法人 日本リザルツ
鰐部 行崇・村上智美

RESULTS
the power to end poverty

日本リザルツの活動

- リザルツは、政策提言や普及啓発活動（アドボカシー活動）を行っている国際市民グループ（NGO）。
- 民意の反映された国際援助を実現し、飢餓と貧困の根絶を最優先とする“政治的意思”の確立に向け活動（1985年に米国で設立、日本リザルツは1989年に発足）。
- 現在、国際保健分野でのアドボカシーを中心として、国際連帯税の創設の活動を行うとともに、東北での復興支援、ハイチでの結核プロジェクト、フィリピンでの緊急支援等を実施。



RESULTS
the power to end poverty

東北での活動その1

【情報を届ける～ハンドブックを配りながら～】

・生活再建・事業再建ハンドブックとは？

⇒震災から約2カ月経った5月12日に、内閣府から発行された情報冊子。生活と事業の再建に役立つ情報を領域別にまとめたもの。

【仮設住宅等約8,000軒以上にハンドブックを届ける中で見えてきたもの】

・どんなに優れた情報(資料・制度)があっても、**丁寧に解説してまわる人や、一緒に分らないことを調べる人がいなければ生かすことができない。**

・「ハンドブックを知っていますか？」は、住民の方との関係作りのきっかけ。

①継続した訪問 ②繰り返しの対話 ③同じ目線で同じ時間を共有

上記3の項目を大切にし、住民の方により近い立場に立って、本当に必要なもの、真の悩みを知っていくことが大事。

・「**言葉の裏に隠された思い**」を汲んでいく。

東北の人は比較的、遠慮深い、辛抱強い、迷惑をかけるくらいなら自分でなんとかする、周りの目を気にする等の思いを持つ人が多い。また同じ市でも部落によって気質の違いが大きい。

⇒その土地柄の気質を知ることが大事。

⇒言葉の他にも表情・しぐさ・格好・行動・住居環境等色々な角度から、全体像を通して理解に努めていく。

⇒少々おせっかいでも、本気でその人の為を思って起こした行動が環境の変化を生み、心の変化を生む。

⇒**本当に困っている人とは、声を出せない人・声を出す手段を知らない人。**



RESULTS
the power to end poverty

東北での活動その2

【専門家出張形式(出前)相談会】

・専門家出張形式相談会とは？

⇒ **専門家自ら、被さいした住民の元へ出向き**、生活・事業再建に向けたアドバイスをを行う相談会。

【専門家出頭形式相談会を通して見えてきたもの】

・弁護士などの「専門家」に対して**敷居が高い。相談する前から一方的に決めつけていたり、勘違いして理解していることが多い。**

(弁護士よりも市役所へ、弁護士よりも銀行へ)

⇒敷居を下げる・親しみの持てる工夫や雰囲気づくりが大切。

(保健師と弁護士ペア)

・住民と専門家をつなぐためには、普段からのこまめな巡回訪問による関係づくりが大切。信頼関係を作るためには、**何度も足を運ぶこと。**

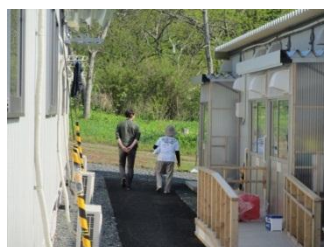
・フォローアップが大事

相談後、解決に向けてすぐに動き出せない人もいる。

「その後どうですか？」の声かけが大事。

・信頼関係を築けた住民から、相談者情報を貰う機会が増える。

⇒都会とは違い、田舎は、近所の人々の情報を互いによく知っている。



RESULTS
the power to end poverty

東北での活動その3

【生活・事業再建者 具体例】

(1) お世話される側からお世話する側へ Kさん

(2) 相談者からみんなの代表へ Aさん



RESULTS
the power to end poverty

東北での活動 纏め

【活動の中で大切にしてきたこと】

- ・小さな不安も安心に一つ一つ変えていく力。



【2012年12月7日の地震を受けて、住民の方が感じていること】

- ・一瞬にして津波の記憶がよみがえった。パニックになった。思考が停止した。
- ・町中警報が鳴り響き、大騒ぎだった。気味が悪い。外に飛び出たが、高台だからと言って安心しきって、電気一つもつけず、外に出ない地域もあった。寒かった。
- ・騒ぎすぎるのもよくない。トラウマになる。
- ・夜が長い。特に単身者にとって、これからの時期、こもりがちになる。淋しい。

【岩手県の住民の方が今、目を向けていること・・・福島】

- ・福島県に行って、向こうの方がもっと深刻だなと思った。
- ・中央にいて政策を作る人が、果たしてどれだけ、福島県の悲しみや辛さを知っているのだろうか。
- ・3・11直後、皆が原発なんていらなないと思った。しかし、時間と共にその思いが風化し、今その思いを持ち続けている人は、半数くらいではないだろうか。
- ・みんなで太陽光を利用するとか、自家発電とか、そういった方法を考えてほしい。
- ・日本は無駄なもの・余計なものが多い。無駄なものばかり作ってどうするの？
- ・人間が人間らしく生活していた頃に戻ればいいのに。
- ・家を流されて思ったこと。実は手荷物2つ程度で生活できるんだってこと。

【今後も必要なこと】

震さいから約一年9か月。仮設暮らし等という不安定な避難生活の中で、住民の方が一番に求めるものは**安心**。その安心をつくるために、私たちにこれからもできること、必要なこととは？

- ・被さい地のことをいつも忘れないように身近にいること。
- ・小さな声にも耳を傾け、大切にすること。
- ・仲間を増やして連携すること。
- ・情報を発信すること。
- ・変わると信じて行動し続けること。



RESULTS
the power to end poverty